



マゲカルフライデー参加公演  
《樋口一葉没後120年記念公演 in 神奈川》

奥山真佐子ひとり芝居

にごりえ

2016年

7月1日[金]午後7時開演

(午後6時30分開場)

神奈川県立青少年センター

多目的プラザ

《お問い合わせ》045-290-5877



※本公演の衣裳とは異なります。

ひぐち いちよう  
樋口一葉  
(明治5年～明治29年)

本初の女性職業作家。両親は山梨県塩山出身19歳で小説家を志し、22歳の時に「大つごもり」で文壇に登場、森鷗外らに絶賛されるが、24歳で死去。  
平成16年、五千円札の肖像となる。「にごりえ」は、亡くなる一年前に発表され、一葉作品の中で最も奥行き深い小説と評されている。



奥山 真佐子

平成9年より樋口一葉作品のひとり芝居に取り組み、今年で19年になる。山梨県甲府市出身。文芸大学文芸科卒。  
24歳で舞台俳優を志し、マキノ雅弘・山田五十鈴・金子信雄・丹阿弥谷津子に師事。NHK朝の連続ドラマ「花子とアン」の山梨ことば指導を担当する。



出演／奥山真佐子  
演奏／本間豊堂(尺八)  
作／樋口一葉  
演出／鈴木龍男 照明／須藤実  
衣裳／岡田幸子 舞台監督／山田タケシ

一般 3000円  
(高校生以下 500円 ※税込、全席自由)



尺八・本間豊堂  
ほなま とよたか  
琴古流古典尺八を加藤秀和、横山勝也に師事。竹心会所属。和楽器のオーケストラ「むつのを」、邦楽創造集団「オーラJ」、箏・長唄三味線・尺八「小熊座」、尺八&ANZIEアノトリオ「平成ロマンキッツ」メンバー。

《あらまし》  
明治28年、東京小石川「菊の井」の売れっ子酌婦「お力」は、華やかな裏に深く暗い闇を抱えている。その「お力」に心を奪われ、一文無しになった夫を支える女房「お初」は、昔の幸せな暮らしを取り戻そうと内職に精を出す……。この二人の女性の二役を、奥山真佐子が演じます。

《次回公演は、日本橋三越劇場》

奥山真佐子ひとり芝居

- ▶9月2日(金)午後7時開演 「にごりえ」(尺八・本間豊堂)
- ▶9月3日(土)午後3時開演 「一葉の母そして十三夜」  
(浄瑠璃・常磐津和英太夫、三味線・常磐津菊与志郎)
- ▶9月4日(日)午後3時開演 「一葉日記そして大つごもり」(お囃子・高橋香衣)

お問い合わせ＝《三越劇場》電話 0120-03-9354 (10:30～18:30)、《河佐井プロモーション》電話 03-6454-1955(平日11:00～19:00)  
詳細は、奥山真佐子ホームページ (<http://www.okuyama104.com/>) の公演予定をご覧ください。